

<独自>奈文研の年輪年代法データ「不開示は不当」 市民団体が提訴へ

1/23(日) 21:05 配信

産経新聞



国内で初めて年輪年代法を確立した奈良文化財研究所＝奈良市

遺跡や建築物に用いられた木材の年輪幅から伐採年を特定する

「年輪年代法」をめぐる、日本でこの測定法を確立した奈良文化財研究所（奈文研、奈良市）が、年輪幅の基礎データの開示を求めた市民団体の情報公開請求に対し、調査研究への支障を理由に不開示としていたことが23日、関係者への取材で分かった。

測定法の確立からはすでに30年以上が経過しており、団体側は「研究に支障が生じるとは考えられない」として、近く不開示決定の取り消しを求め、提訴する方針。

年輪年代法は、奈文研の前身である奈良国立文化財研究所の光谷（みつた）に拓実氏が昭和55年に研究に着手。ヒノキについて、紀元前から約2千年分の年ごとの年輪幅が分かる「暦年標準パターン」を平成2年までに確立。その後、範囲を広げ、現在ではヒノキとスギの約3千年分の年代を測定できるようになっている。団体が開示を求めたのは採取した木材の年輪を撮影した画像や年輪幅の計測結果など「暦年標準パターン」の作成に用いられた基礎データ。昨年7月に奈文研側に公開を求めたところ「調査研究の公正かつ能率的な遂行を不当に阻害する恐れがある」として不開示の決定を受けた。団体側は「暦年標準パターン自体は平成2年に公表され、30年余り経過している。基礎データの開示で調査研究を阻害する恐れが生じるとはいえない」と不開示に反発。暦年標準パターンが年代測定の「物差し」になっているにもかかわらず、その妥当性を示すデータを公開しないのは不当だと主張しており、奈文研を運営する独立行政法人国立文化財機構（東京）を相手取り、近く東京地裁に訴訟を起こす。産経新聞の取材では、基礎データは奈文研本体ではなく、20年に奈文研を退職し、今は客員研究員となっている光谷氏が個人で管理。取材に対し光谷氏は「今は自分が作成した暦年標準パターンの年代をさらに延ばすため、サンプルとなる木材の採取・測定を継続している。データを整理した上で奈文研にわたすのが私の責務」と話し、不開示決定については「知らなかった」とした。一方、奈文研側は不開示決定について「調査研究がまだ完了していない」と述べるにとどめた。文部科学省が26年に策定したガイドラインでは、各研究機関が研究者に対し、研究データを一定期間保存し、適切に管理・開示するよう義務付け、第三者による検証可能性を確保することを求めている。

年輪年代法 気温や降水量、日照量の違いで幅が変わる樹木の年輪の特徴を利用した科学的な年代測定法。20世紀初頭に米国で開発された。大量の木材の年輪幅を100分の1ミリ単位で計測し、平均的な年輪の変動をパターン化したグラフ「暦年標準パターン」を作成。これを年代特定の「物差し」として、実際に遺跡で出土した木材の年輪幅と照合することで伐採年代を割り出す。これまで遺跡に残る柱根の伐採年から奈良時代に聖武天皇が造営した紫香楽宮（しがらきのみや）＝滋賀県甲賀市＝の特定につなげたり、法隆寺五重塔（奈良県斑鳩町）の心柱の伐採年を594年と判定したりして成果を挙げている。

最終更新:1/23(日) 21:15

産経新聞

記事へのコメント

- ① 年輪年代法が年代測定の手法として使用されているのに、その肝心な元データが開示されていないため、そもそも奈文研の年輪年代法が正しいのかどうか検証できないとは、昔から指摘されてきた問題点。この市民団体の素性は存じませんが、言っていることは極めて妥当であり、そもそも年輪年代法の基礎データなど公開して何ら支障があるものでは無いのだから、公開できないという方がおかしい。これを機会に、奈文研にはぜひ基礎データを公表してもらい、年輪年代法が学術界の批判に耐えうる方式であることを証明してもらいたい。
- ② 市民団体が因縁ふっかけてるように読めるが、これは奈文研とか榎原考古学研究所とか考案した「年代測定法」を門外不出にしちゃうから、他の人が妥当性を検証できないんだよ。言い方悪いが「言ったもん勝ち」の世界。ずっとむかしから指摘されてたこと。日本の考古学が科学じゃないと言われてしまう要因のひとつ。
- ③ この年輪幅の基礎データは邪馬台国論争に深く関わっていると聞いたことがある奈文研はもちろん畿内派なんだが、畿内説の証拠に年輪幅データを用いており、九州派は基礎データが開示されていないのでそれは証拠とは認められない、それよりもまず基礎データを開示しろという立場だったはず
- ④ 年輪幅の計測は私も調査研究で用いたことがあります、暦年標準パターンについて奈文研が研究未完了と認めたことは重大で、これまでの推計年の信頼性が一挙に崩れることになります。
- ⑤ 邪馬台国畿内説の根拠が年輪年代法による纏向遺跡の年代測定。4世紀の遺跡とされていた纏向が100年繰り上げられて邪馬台国の最有力候補地となったのはこの測定法によるものが非常に大きい。
- ⑥ そして遺跡内の箸墓古墳はその巨大さからもっと後の年代ではないかとの疑義は現在でもある。そんな状況で年輪年代法の根拠が開示できないとなればとんでもない話。もし捏造があれば数々の畿内説研究が根底から崩壊し旧石器事件並みの大スキャンダルは間違いない。徹底的な調査が必要。
- ⑦ 研究手法や、研究結果というのは研究者間での公開が原則のはずだけど。小保方ちゃんの件も公開されていたから検証できたはず。ましてや税金で行っているのだから公開しないのはおかしいだろ。退職して囑託のような扱いとは言え、税金で研究してることに変わりはない。
- ⑧ 一体どういう市民団体なのか重要な情報が報道から抜け落ちているそのせいで読者はこの判断の妥当性について何の議論もできないし感想も抱けない
- ⑨ 詳細は知らないが記事の限りだと、年輪年代法に用いている基礎的データが適切かどうか疑わしく、そこに業界の政治的バイアスが絡んで、結局何が正しいのか良くわからないし正しい事実に基づいて色々進んでいない、っぽい。で「法廷でハッキリさせるために非主流派が提訴した」とか、そんな感じに思える。もっとも、提訴した側が長年嫉んでいるだけかもしれないが。嫉みでなければ、ネオニコチノイドでもフクシマでも辺野古でもコロナでも繰り広げられている、自然科学や社会科学における統計的データの取り扱いと用い方を巡る論争の一環ということである。数学と数字はウソをつかないが、その用い方一つでいかようにもウソはつける。例えばそれが「科学的事実」であっても。
- ⑩ そんな重要な基礎データが非公開なのに、なぜ何十年も年代決定の基準に使われているのか理解に苦しむ。少なくとも自然科学の世界じゃ門前払いだ。考古学は適当な学問なのか？
- ⑪ どのような市民団体なのか明らかに出来ないのか、それと開示請求の理由は何なのかな。請求先の名称は開示するのに請求元の名称が開示なのは何故なんだ。名前を出せない市民団体なのかな。
- ⑫ 日本には、日本の古代史を自分たちの歴史だと言いたい人たちがいるからなあ。慎重にも慎重にしてほしい。
- ⑬ どういう団体で、何の為の情報開示請求なのか、詳細を報道して欲しいです。
- ⑭ 何のための開示請求なのか 多大な予算と時間をかけて収集、分析した基礎データの海外流出を目的にしてるんじゃないかと疑うよ
- ⑮ データを独り占めして、業績を独占したい、他の解釈の余地がないようにしたい、だけにしか思えないが
- ⑯ 隠されると、怪しく感じてしまいますなあ。そもそも日本の考古学は学者さん達が勝手に妄想で「浪漫」を語っているようにしか見えない。「そんなに税金使うなよ」と言いたい。
- ⑰ 大体、誰なのか想像がつくさ。ここと敵対しているのは、邪馬台国九州派の市民団体だよ。古文研の態度も権益を独占したいという態度からあまり大人げないと思うがね。
- ⑱ 市民団体が言っている事は妥当かと思いますが、この“市民団体”も自らの素性を公にして報道されるべき。残念ながら悪意ある“市民団体”も存在しますので
- ⑲ これが研究が完了してないとして開示しないのは一切の信憑性が存在しないというに等しいぞ。決定した輩はアホかな？
- ⑳ 市民団体？？他者の研究成果を開示しろ？？せめて対価を支払うというのなら話し合いにもなるでしょうが一方的に研究成果をよこせと言っているようなもの。日常生活に取り入れられそうもない研究 どんなメリットがあるのか？ このような記事を見ると 即座に思い立つのは 近隣諸国の技術盗用疑惑しかありません

21 どこの市民？